



2013年10月23日

神奈川県知事 黒岩 祐治 様

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)  
関東甲信越支部支部長 上 浪 寛  
同保存問題委員会委員長 安達 文宏  
同神奈川地域会代表 青木 恵美子



## 神奈川県立近代美術館鎌倉館の建物の活用とその景観の保全に向けた要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。  
貴県におかれましては日頃より文化の継承に理解を示されていることに敬意を表します。  
また、当会の活動に格別のご理解を賜り、深く感謝申し上げます。

当会では、平成22年12月に当時の松沢知事並びに藤井教育長宛に神奈川県立近代美術館鎌倉館についての保存要望書を提出させて頂いておりますが、土地の賃借契約期限も2年半後に迫るこの時期を迎え、改めてこの建物の活用と景観の保全を要望いたします。

建築関係者をはじめ一般市民の方々からも鎌倉館の建物の存続については注目されており、本年3月25日には神奈川新聞に「貴重な神奈川県立近代美術館鎌倉館の扱い」という記事が大きく掲載されました。貴県におかれましても多々ご思料のことと推察いたします。

鎌倉館の保存活用に対する、私ども日本建築家協会の想いは前回提出させて頂いた別紙の要望書に記した通りです。神奈川県立近代美術館の建設は当時の内山知事をはじめ多くの方々の文化興隆への強い意志により実現しました。20世紀を代表する建築家ル・コルビュジェに師事し、国内外の近代建築史に大きな足跡を残した坂倉準三の設計による鎌倉館は、時の経過の中で今や一つの風景となり、鶴岡八幡宮と共に多くの市民に愛されています。モダニズムの代表的建築物と歴史的な景観のこのような組合せ、佇まいは、国内では類を見ないものであり、歴史と文化の重層性という観点からもたいへん重要なものと言えます。

解決すべき課題もありますが、鎌倉館は、現在の技術をもってすれば将来にわたり維持活用が十分に可能であり、それを行う価値のある建築資産です。坂倉の代表作であり国際的にも評価が高い鎌倉館の建物の活用、歴史と文化が調和した魅力的な景観の保全、これらについて、特段のご配慮をもって取り組まれますよう、ここに改めて要望いたします。今後の方向性を含め、なにとぞご回答いただけますよう、貴県にお願いする次第です。

なお、公益社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部、同保存問題委員会、同神奈川地域会は、神奈川県立近代美術館鎌倉館の建物の活用と景観の保全について、出来る限りの協力をさせて頂く所存であることを申し添えます。

敬具